

科目名	ビジネス法特講	担当者	ナカムラ リョウ 中村 良	期間	通年	単位数	4
-----	---------	-----	------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>経済法という法典は存在しません。また経済法をどのように考えるかについては、諸説あります。ビジネス法特講においては、「市場支配」に対する国家による規制法と定義し、私的独占の禁止および公正取引確保に関する法律（以下、独占禁止法とします）をその中心と考えます。</p> <p>経済法を理解することなく事業活動を進めることは、多くのリスクが予想されます。そこでリスクを回避するためにも、具体的な事例を通じて経済法（特に独占禁止法）を理解することが重要です。レポート1では、その中心的な概念である私的独占・不当な取引制限等の主要な概念を中心に勉強を進めて頂きます。レポート2では、不公正な取引方法、刑事罰・損害賠償・課徴金等を中心に勉強して頂きます。本講義の目的は、レポート作成を通じて受講生に抽象的な知識ではなく具体的な知識を取得してもらうことです。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 独占禁止法の意義・基礎概念をしっかりと理解する。 2 上記知識を具体的な事例に適切に適用できる。 3 独占禁止法違反の回避または損害を最小限にするために適切な行動がとれる。 		
学修方法	<p>独占禁止法の法律要件を抽象的に理解するだけでは、十分に理解したことにはなりません。典型的な事例を分析・検討することがとても重要です。まず、教材①で独占禁止法について概観し、次に教材②を通読し、独占禁止法の要件について勉強します。そして知識を立体化するために教材②の文中で紹介されている判例・審決について教材③で確認してください。不明な点は、担当教員にメールで質問して下さい。(nakamura.ryo@nihon-u.ac.jp)</p>		
スケジュール	<p>前期：基本教材1 レポート課題(1)は平成29年7月末をめどに 課題(2)は平成29年8月末をめどに提出して下さい。</p> <p>後期：基本教材2 レポート課題(1)は平成29年11月中旬をめどに、課題(2)は平成29年12月中旬をめどに提出して下さい。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	60%	①教材、レポートの課題内容の理解度、②判例・審決、学説の理解度、③レポート内容の論理性、④レポートの体裁（引用形式等）が整っていることを総合的に評価する。
	平常評価	40%	平常時の質問等を評価する
履修者への要望	<ol style="list-style-type: none"> 1 基本教科書について不明な点、資料の調べ方等電子メールを活用し、積極的に質問して下さい。 2 新聞等で特に独占禁止法に関連する報道があれば是非調べてみて下さい。 3 履修登録をされた際には、下記メールアドレスにてご連絡をお願い致します。 nakamura.ryo@nihon-u.ac.jp 		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>①公正取引委員会 HP (http://www.jftc.go.jp/) 「動画で分かる公正取引委員会」</p> <p>②著者名：泉水文雄， 土佐和生， 宮井雅明， 林 秀弥 教材名：『経済法（第2版）』（有斐閣 2015年）ISBN:978-4-641-17928-8 2,900円+税</p> <p>③著者名：舟田正之（編集）， 金井貴嗣（編集）， 泉水文雄（編集） 教材名：『経済法判例・審決百選（別冊ジュリスト）』（有斐閣 2010年） ISBN:978-4-641-11499-9 2,800円+税</p> <p>教材①は独占私法を管轄する「公正取引委員会」が作成している「動画」です。平易な表現で説明していますので、法律を初めて勉強する方にもよい教材です。教材②は法学部さらには法科大学院の教科書として使用に耐える教科書です。少し難解かもしれませんが挑戦してみてください。教材③は、主として独占禁止法を理解するうえで重要な判例・審決について解説しています。</p>
参考図書	<p>根岸（編）『注釈独占禁止法』（有斐閣，2009年）ISBN:978-4-641-01836-5 7,000円+税</p> <p>武田晴人『談合の経済学』（集英社文庫，2006年）ISBN:4-08-747091-1 533円+税</p>
履修上のポイント	<p>独占禁止法の法律要件を抽象的に理解するだけでは、十分に理解したことにはなりません。典型的な事例を分析・検討することがとても重要です。まず、教材①で独占禁止法について概観し、次に教材②を通読し、独占禁止法の要件について勉強します。そして知識を立体化するために教材②の文中で紹介されている判例・審決について教材③で確認してください。不明な点は、担当教員にメール等で質問して下さい。</p>
レポート課題 1	<p>「独占禁止法の目的について論じなさい」 留意点：それぞれの説について検討するとともに、自らの見解も示してください。</p>
レポート課題 2	<p>「談合は、独占禁止法に違反するか論じなさい」 留意点：①談合とは何か。②何故談合が行われるのか。③談合は独占禁止法違反となるか。丁寧に検討するとともに、自らの見解も示してください。</p>

基本教材 2	
教材の概要	<p>①公正取引委員会 HP (http://www.jftc.go.jp/) 「動画で分かる公正取引委員会」</p> <p>②著者名：泉水文雄， 土佐和生， 宮井雅明， 林 秀弥 教材名：『経済法（第2版）』（有斐閣 2015年）ISBN:978-4-641-17928-8 2,900円+税</p> <p>③著者名：舟田正之（編集）， 金井貴嗣（編集）， 泉水文雄（編集） 教材名：『経済法判例・審決百選（別冊ジュリスト）』（有斐閣 2010年） ISBN:978-4-641-11499-9 2,800円+税</p> <p>独占禁止法の法律要件を抽象的に理解するだけでは、十分に理解したことにはなりません。典型的な事例を分析・検討することがとても重要です。まず、教材①で独占禁止法について概観し、次に教材②を通読し、独占禁止法の要件について勉強します。そして知識を立体化するために教材②の文中で紹介されている判例・審決について教材③で確認してください。不明な点は、担当教員にメール等で質問して下さい。</p>
参考図書	<p>根岸哲（編）『注釈独占禁止法』（有斐閣，2009年）ISBN:978-4-641-01836-5 7,000円+税</p>
履修上のポイント	<p>教材②を精読するとともに、インターネット等を通じて資料を検索・検討してください。</p>
レポート課題 1	<p>「再販売価格維持制度とその適用除外について論じなさい」 留意点：独占禁止法は原則再販売価格維持行為を禁止しているが、例外を認めている。再販売維持行為を禁止する理由と例外を認める理由につき検討し、その妥当性について検討するとともに、自らの見解をしめすこと。</p>
レポート課題 2	<p>「独占禁止法違反を予防するために、どのような措置が考えられるか論じなさい」 留意点：現在の独占禁止法の執行方法について検討するとともに、より予防するためにどのような措置が考えられるか検討して下さい。</p>